

令和元年度
総合福祉施設 京都桂川園 事業報告書

1. 事業総括

開所20年を迎える多きな節目の年であったが、当園のコンプライアンス上の問題発生や年度途中で管理職の退職があるなど、様々なことで課題を残す年度であった。その中で、一つ一つの部署においては、職員の確保が難しく、引き続き課題となっているが、今できることは何かと考へ、利用者の支援を優先的に整えていく努力を惜しまずに行ってきた。安定した利用者の支援のためには、今後も人材確保には努めていきたい。

【高齢部門】

入所、通所ともに利用者の変化が続く中で、その変化に対応できる職員集団を目指してきた。特に、1月以降、法人の事務センターの設立に向けては、体制の変化にも対応しながら、それぞれの部署でも創意工夫を行ってきた。当園のコンプライアンス上の問題発生に関しては真摯に受け止め京都市にも報告を行ってきたところであるが、これを機に改善すべき課題に取り組んでいきたい。各部署の稼働率を見ると、入所部門が、年度を通じて定員を割っていることや、通所部門の稼働率が下がってきていることが課題であり、特に入所部門については早急に満床とすることが課題とされる。

【障害部門】

それぞれの部署が連携の意識を持ち、共通の課題を持ち取り組んできたことが評価される。年度途中で施設長の交代があったが、大きく混乱することなく利用者の支援を行ってきた。稼働率に関しては、本体の通所以外は、やや苦戦してきたが、現在は入所に関しても安定しており、継続をしていきたい。久世センターの事業運営については根本的な見直しが必要な状況であり、改善計画の策定を進めたい。

2. 重点実施項目

① 組織風土の形成

新たな組織体制の中で新たな風土をと取り組んできたが、日々の問題に取り組むことに追われ、なかなか前進することは難しかった。その中でも、年度途中の体制の変化に対応しながら、今後の課題を整理していく姿勢は整ってきた。

【高齢部門】

入所部門、相談部門で職員の確保に苦勞してきた中で、特に入所部門に関して、待遇などの面で課題が見えてきた。相談部門においては、地域の中での取り組みが根付いてきており、職員の意識の向上につながっている。これまでの良いところは残し、変えるべきことは変えていく体制を整えていけるように人材確保に努め、安心して働ける職場を目指していきたい。

【障害部門】

これまで以上に各部署が連携する意識を高め、それぞれに向上していこうとする姿勢が見えた年度であった。利用者目線に立ち、安心できる支援が継続するようにしていきたい。

② 職員満足度向上

職員の確保に努め、安心して働ける環境の提供を目指してきたが、なかなか人材の確保は難しく目標に達することはできなかった。今後の継続課題として残ることになる。

【高齢部門】

入所部門では、職員体制が整わない中でも、利用者を支援することに喜びを感じられる職員を目指してきた。日々の業務改善を行いながら、努力をしてきたが、やはり日々追われることも多く、課題が残った。相談部門でも、職員の入れ代わりがある中で、利用者への対応に追われることも多かったが、地域に向けての行事など、利用者からの反響が職員の満足度につながっている。通所部門では、後半は職員も安定し、このまま体制を維持していきたい。

【障害部門】

久世の職員確保に苦勞をしている。体制が安定していないことで、稼働率が下がり、久世単体での課題ではなく、障害部門の問題として取り組んでいきたい。入所や、障害デイについては、職員の体制は十分とはいえないが、整ってきており、ホームページの充実などモチベーションのアップにつながっている。引き続き環境を整えていきたい。

③ 生産性の向上

全体的に稼働率は上がっていない。その中で、安定した利用者の利用につなげるためには、やはり職員の質を上げていくことが望まれる。専門性の向上のための学習、研修の機会が確保できていなかったことも課題として挙げられる。

【高齢部門】

今年度、特に稼働率を上げられなかったのは入所部門であった。入所申込者にも変化があり、入所の打診をしても、辞退やすでにほかの施設に入所していたりと、1名が入所するまでに時間がかかるケースが多かった。ショートステイやデイサービスでも同様に利用者の確保に苦勞をした面もあり、利用にいたるまでの対応や、サービス環境の改善も整えていきたい。また、利用者に対する接遇や、倫理、人権、身体拘束等の研修も不足しており、利用者に対する安心した環境の提供ができるように努力し、稼働率のアップにつなげていきたい。

【障害部門】

今年度、入所部門において、退所後の補充に時間がかかる場面があった。入所選考の時点での辞退等、京都市との調整がうまくいかなかったことが原因に挙げられ、今後の課題となった。そのほか職員の人権研修などは随時行われており、利用者の安心にはつながっている。

3. 実績報告

※実施事業のうち、入所施設等主たるもの。

事業名	定員	年間利用者数	稼働率
① 京都市桂川特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）	50名	17,300名	94.5%
② 京都市桂川老人デイサービスセンター（通所介護）	30名	7,708名	83.1%
③ 京都市桂川療護園（障害者支援施設）	40名	14,054名	96.0%
④ 京都市桂川障害者デイサービスセンター（生活介護）	20名	4,843名	93.9%
⑤ 久世障害デイサービスセンター・ショートステイ（生活介護）	25名	5,014名	77.7%

※その他実施事業

京都市桂川特別養護老人ホーム（老人短期入所生活介護）、桂川居宅介護支援事業所（居宅介護支援）、京都市桂川地域包括支援センター（地域包括支援センター予防/委託）、京都市桂川療護園（障害者短期入所）、久世障害デイサービスセンター・ショートステイ（障害者短期入所）、久世障害相談支援事業所（障害者相談支援）

4. 職員数

常勤職員	非常勤職員	派遣職員	合計
77名	49名	23名	149名

5. 施設整備等（設備投資）

(税込)

① 特殊浴槽（寝台浴）	7,344,000円
② 介護用ベッド（低床対応タイプ・2台）	601,344円
③ タイムレコーダー	938,960円
合計	8,884,304円